

AstraZeneca PLC

2002 年第 3 四半期および 1-9 月期の業績

9 カ月でEPS は10 %アップ、通年の利益予測を上方修正

第3 四半期は研究開発費増 (フェーシング)、売却益減に影響をうける

フィナンシャルハイライト (例外的損益項目控除前)

グループ (継続事業*)	第3四半期	第3四半期	恒常為替	1-9月期	1-9月期	恒常為替
	2002 \$m	2001* \$m	%	2002 \$m	2001* \$m	%
売上高	4,350	3,950	+6	13,153	12,040	+9
営業利益	921	1,015	-9	3,282	3,066	+8
税引前利益	923	1,038	-11	3,306	3,167	+5
1株当たり利益						
グループ	\$0.39	\$0.42	-7	\$1.39	\$1.28	+10
グループ (法定会計 Statutory FRS3)	\$0.39	\$0.40		\$1.39	\$1.23	

新報告基準 FRS19 に従って再計算。伸び率は恒常為替率 (CER)。

- 利益予測を上方修正：今年度の 1 株あたりの利益予測は昨年報告した\$1.73 より4%から5%増を予想しています。
- 1-9 月の売上は 9%増でした。第 3 四半期の売上高は Seroquel™ (セロクエル)、Toprol-XL™製品の米国の卸在庫の傾向ならびに Barr Laboratories 社とのタモキシフェンの販売契約切れに影響を受けました。
- 1-9 月の営業利益は 8%増でした。第 3 四半期の営業利益は 9%減となりましたが、その主な原因として、その他営業収益の減少がありますが、この項目は 2001 年第 3 四半期にはマルチビタミン製品の売却益や現在終了している契約からの当時のロイヤリティ収入が含まれていました。
- Nexium™の第 3 四半期の売上は 4 億 9300 万ドル を達成しました。1-9 月の売上では 13 億ドルを超えました。Nexium™の米国での新規処方数は Prilosec™ (日本での製品名：

オメプラール)のそれを上回りました。

- 10月11日、ニューヨーク州南部地方裁判所でPrilosec™ (日本での製品名 :オメプラール)の製剤特許は有効であると判決されました。被告側の4社中3社はその特許を侵害しているとされました。アストラゼネカはKudco社には特許の侵害が認められないとの判決を検討中です。
- Iressa™ (イレッサ)は8月30日に日本において非小細胞肺がんの治療薬として正式に発売されました。その売上は第3四半期に2600万ドルに達しました。
- 9月24日、米国FDAの腫瘍薬諮問委員会 (Oncology Drugs Advisory Committee)は非小細胞肺がん適応でのIressa™ (イレッサ)の迅速な審査を大差で支持しました。

トム・マキロップ CE は、 当社の主な成長製品の処方数は引き続き力強く伸長しました。Iressa™ (イレッサ)の日本でのスタートと米国での諮問委員会の承認推奨は明るい材料です。Prilosec™ (日本での製品名 :オメプラール)の製剤特許の有効性を支持する判決はすばらしいニュースであり、このニュースによって当社の通年の利益予想を上方修正することが可能になりました。」と述べました。

London, 24 October 2002

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート(CER)。

1-9月の売上は9%増、営業利益は8%増でした。対米ドル為替変動の売上に対する影響はありませんでしたが、営業利益で1%のマイナス影響を受けました。1株当たり利益(例外的損益項目控除前)は10%増の\$1.39でした。今年度の例外的損益項目は発生していません。

第3四半期の売上は恒常為替レートで6%増でした。あらゆる通貨に対するドル安は売上にプラス影響を与え、10%増となりました。英スターリングポンド、スウェーデンクローネに対するドル安は営業経費にマイナスの影響を与え、売上へのプラス影響が相殺されました。結果、営業利益に対する影響はありませんでした。営業利益は報告ベースにおいてもCERベースにおいても9%減でしたが、これは2001年第3四半期に比べて、その他営業収益が減少したのが主な原因です。マルチビタミン製品の売却益、昨年で失効したロイヤリティ契約からの収入が含まれていたためです。1株当たり利益(例外的損益項目控除前)は7%減の\$0.39でした。

1-9月の米国での売上は8%増、引き続き好調な日本(19%増)を含むその他の国で9%増でした。第3四半期の売上は米国以外の国で10%増、米国では4%増加しました。卸の購入パ

ターンが米国の工場出荷売上(報告ベース)に影響を与えました。米国における Toprol-XL™、Seroquel™(セロクエル)の処方傾向は引き続き好調ですが、工場出荷売上増(報告ベース)は処方増をかなり下回りました。さらに、Nolvadex™(ルバデックス)の第3四半期の売上が低かったが、それは8月のBarr Laboratories社との販売契約切れ前からタモキシフェン後発品の発注が急激に減少したためです。

Nexium™の1-9月の売上は好調で、13億ドルに達し、GI製品の売上7%増に貢献しました。米国PPI市場ではNexium™の処方シェアが10月11日に終わった週で22%でした。Nexium™は今やアストラゼネカPPI製品の新規処方数の50%を上回るシェアを占めています。

10月11日、ニューヨーク州南部地方裁判所で公判が行われ、Barbara Jones 裁判長はPrilosec™(日本での製品名:オメプラール)の主成分オメプラゾールの製剤に関連する2つの特許(230および505)が2007年まで有効であると判決を下しました。さらに、Andrx社、Genpharm社、Cheminor社がこれらの特許を侵害しているとの判決を下しました。またKudco社の特許侵害は認めませんでした。アストラゼネカはこのKudco社判決を受けて、今後の対応のオプションを検討しています。

1-9月のGI(消化器)フランチャイズ以外の売上は10%増加しました。Symbicort™の各国における発売、米国でのPulmicort™(パルミコート)、Respules™、Rhinocort™ Aquaの好調な売上により、呼吸器製品は14%増加しました。Seroquel™(セロクエル)の継続的需要増によりCNS製品の売上は42%増加しました。

1-9月のオンコロジーの売上は13%増加しました。第3四半期にIressa™(イレッサ)は手術不能または再発非小細胞肺癌(NSCLC)の適応で日本で承認され、8月30日の薬価収載後、全面的に発売されました。発売後の売上の伸びは好調で、第3四半期の売上は2600万ドルを達成しました。米国FDAの腫瘍薬諮問委員会は9月24日に進行性非小細胞肺癌の適応でのIressa™(イレッサ)の早期承認を勧告しました。

8月に報告した通り、Crestor™のapprovable letterへの当社の対応に関して、FDAとの建設的な会議を持ちました。その結果、当社は既にFDAに申請資料として提出しているデータを補足するものとして、現在実施中のCrestor™の臨床試験の結果を提出することになりました。これは脂質障害患者において、Crestor™10-40mg投与を支持するものです。このデータの提出は2003年の第1四半期を予定しています。

Exanta™の整形外科手術後の静脈血栓塞栓症予防薬としてのヨーロッパでの申請の根拠となっているEXPRESS臨床試験結果が来週行われる国際血栓症会議で発表されます。Exanta™に関する詳しい情報また当社のその他の開発品ポートフォリオについては11月7日に英国オールダリーパークで行われるアニュアル・ビジネス・レビューミーティングで発表する

予定です。

今後の見通し 伸び率は恒常為替レート(CER)。

Prilosec™ (日本での製品名 :オメプラール)の特許訴訟の判決をうけて、2002 年に米国市場でのオメプラールの後発品の参入は想定していません。これをベースにその他の要因も考慮して、今年度の利益予測を上方修正しています。なお、1 株あたりの利益は昨年発表した \$1.73 の約 4%から5%増を予想しています。(新報告基準 FRS19 に従って再計算。)

アストラゼネカは 2002 年度業績発表とともに 2003 年度業績予測を1 月 30 日に発表します。

注意： 当社の利益やビジネスの見通しへの期待に関する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラールの後発品の発売時期、新製品の承認取得ならびに上市の成否(とくにCrestor™、Iressa™、Exanta™)既存製品の継続的成長、コストや経費の増加、グループの現金収支に対する実質的な利息収入の額、為替レートの変動、税率の更なる改善、というようなリスクや不確定要素です。これらやその他のリスクや不確定要素については、2001 年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取委員会への有価証券報告書をご覧ください。

Media Enquiries:	Steve Brown/Emily Denney (London)	(020) 7304 5033/5034
	Staffan Ternby (Södertälje)	(8) 553 26107
	Rachel Bloom (Wilmington)	(302) 886 7858
Analyst/Investor Enquiries:	Mina Blair-Robinson (London)	(020) 7304 5084
	Staffan Ternby (Södertälje)	(8) 553 26107
	Ed Seage (Wilmington)	(302) 886 4065
	Jörgen Winroth (Wayne)	(609) 896 4148

売上高

伸び率は恒常為替レート(CER)

消化器

	第3四半期		CER %	1-9月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Losec™/Prilosec™ (日本での製品名:オメプラール)	1,223	1,421	-16	3,578	4,287	-17
Nexium™	493	168	n/m	1,323	295	n/m
Total	1,731	1,598	+6	4,946	4,612	+7

- 米国におけるNexium™の売上は1-9月で、10億ドルを超え、第3四半期では、3億7,800万ドルでした。米国PPI市場における新規処方シェアでNexium™は、9月に20.7%に増加しました。最近では、Nexium™が、アストラゼネカPPI製品の全新規処方のうち、半分以上を占めています。
- 米国以外のNexium™の売上は、1-9月で、2億9,200万ドルで、第3四半期では、1億1,500万ドルでした。最近の上市に関して言えば、フランスでは、上市後6カ月でマーケットシェアは7%を超え、イタリアでは、上市後5カ月で8%を超えました。
- Losec™/Prilosec™ (日本での製品名:オメプラール)の売上高は、第3四半期では16%減となり、主に米国で18%減だったことと(これは、処方動向とほぼ一致していました)、英国における後発品との競合によります。
- しかし、GIフランチャイズの総売上は、米国(第3四半期で6%増、YTDで7%増)およびその他の国(第3四半期で4%増、YTDで8%増)ともに、増加しました。

循環器

	第3 四半期		CER %	1-9 月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Zestril™ (ゼストリル)	189	188	-3	748	832	-10
Atacand™	132	93	+33	413	289	+41
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	206	204	-2	652	554	+17
Plendil™ (スプレンジール)	149	120	+20	355	332	+6
Total	850	786	+3	2,713	2,621	+4

- 予測通り、米国における Zestril™ の処方数は、7月に後発品が発売されたことにより、第3 四半期は激減しましたが、第3 四半期の米国の売上は、不調だった2001年同期に比べて、2%増でした。第4 四半期には売上の急速な減少が予測されます。
- Atacand™ 製品の売上が、第3 四半期において、堅調に伸びたことが、欧州 (32%増) や米国 (31%増) で報告されました。米国における Atacand™ および Atacand™ HCT の総処方数は、1-9 月で 32% 増です。
- Toprol-XL™ の米国での処方数の伸びは、好調を維持しています (1-9 月で 39% 増)。米国の第3 四半期の売上は、好調だった昨年の同期に比べ、在庫調整の影響もあって、1% 減でした。

呼吸器

	第3 四半期		CER %	1-9 月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Pulmicort™ (パルミコート)	150	161	-12	580	570	+1
Accolate™ (アコレート)	28	20	+40	95	115	-16
Rhinocort™	80	64	+22	226	194	+15
Oxis™	30	29	-7	91	94	-5
Symbicort™	72	20	n/m	194	34	n/m
Total	394	329	+13	1,292	1,123	+14

- Symbicort™ の第3 四半期の売上高は、7,200 万ドルに達しました。欧州呼吸器学会で先月、Symbicort™ が、増悪を有意に減少させ、COPD (慢性閉塞性肺疾患)患者の肺機能を改善させることを示す、有望な結果が発表されました。アストラゼネカは、COPD (慢性閉塞性肺疾患)の治療薬として、Symbicort™ の承認申請を、EU で行いました。
- Pulmicort™ の第3 四半期の売上高は、米国で 10%減、その他の国で 13%減でした。Pulmicort™、Respules™ の業績は米国で、好調基調が続き (総処方数は、1-9 月で 75%増)、米国での第3 四半期の売上は、卸の購買パターンの変動により 4%減でした。
- Rhinocort™ Aqua の米国での売上は、安定した伸びを示し (1-9 月で 43%増)、グローバルでの Rhinocort™ フランチャイズの売上増の主な要因となっています。

オンコロジー

	第3 四半期		CER %	1-9 月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Casodex™ (カソデックス)	191	149	+22	465	393	+18
Arimidex™ (アリミデックス)	96	47	+98	242	139	+73
Nolvadex™ (ルバデックス)	86	160	-47	348	446	-21
Zoladex™ (ゾラデックス)	208	175	+14	595	519	+16
Faslodex™	11	-	n/m	19	-	n/m
Iressa™ (イレッサ)	26	-	n/m	26	-	n/m
Total	622	538	+12	1,710	1,519	+13

- 欧州 (42%増)と日本 (40%増)での売上が堅調に伸びたことから、Casodex™ (カソデックス)の第3 四半期の売上は、22%増となりました。
- 米国での Casodex™ (カソデックス)の売上は (第3 四半期は、7,300 万ドル)、低調だった1-6 月 (2002 年上半期は、6,500 万ドル)に激しく反発し、好調だった2001 年同期比3%増でした。
- Arimidex™ (アリミデックス)の売上は、早期乳がんの術後療法におけるベネフィットを示した ATAC 試験の結果が、ポジティブに受け止められていくことが反映されています。この新しい適応症を米国 FDA は9月6日に承認しました。米国以外の売上は、1-9 月で50%増、米国で119%増でした。米国の業績は、処方の需要が好調だったことや (1-9 月で71%増)、卸在庫の積み増しがいくらかあったことがベースになっています。
- 米国における Nolvadex™ (ルバデックス)の第3 四半期の売上は、Barr Laboratories 社との販売契約満了の8 月末前に、タモキシフェン後発品の注文が、急激に減少したことにより、昨年と比べて減少し、7,400 万ドルでした。
- 進行乳がんの新しい治療薬である Faslodex™ の早期浸透という励みになる状況が、米国において続いています。第3 四半期の売上は、1,100 万ドルで、YTD では1,900 万ドルでした。

- 日本において Iressa™ (イレッサ) が、8月30日に薬価収載・発売になりました。市場浸透は、期待のもてるものであり、第3四半期の売上高は、2,600万ドルに達しました。

中枢神経

	第3四半期		CER %	1-9月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Seroquel™ (セロクエル)	200	169	+16	804	526	+53
Zomig™ (ゾーミック)	69	55	+18	237	209	+12
Total	277	237	+14	1,064	751	+42

- 米国における上半期の Seroquel™ (セロクエル)の売上 (報告ベース)は、処方伸びを上回るものでしたが、これは、在庫積み増しを示唆しています。第3四半期は在庫調整により、5%増 (報告ベース)でした。処方需要の動向は、堅調を維持し、1-9月で47%増でした。
- Seroquel™ (セロクエル)の米国以外での第3四半期の売上は、62%増でした。
- Zomig™ (ゾーミック)の米国以外での1-9月の売上は、18%増でした。フランスでの売上の伸び (報告ベース)が、好調でした (35%増)。米国における第3四半期の売上は、67%増でしたが、これは、昨年第3四半期の在庫調整が反映されています。米国における Zomig™ (ゾーミック)の処方数は1-9月で、12%増でした。これは、Zomig™-ZMT が継続して伸びている結果です。

疼痛、感染症ほか

	第3 四半期		CER %	1-9 月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Merrem™	76	56	+34	218	162	+35
Diprivan™ (ディプリバン)	105	114	-10	331	329	+2
Xylocaine™ (キシロカイン)	43	52	-17	128	155	-15
Marcaine™ (マーカイン)	19	20	-10	54	61	-11
Total	352	361	-4	1,065	1,103	-3

- Merrem™ の売上は、すべての主要な市場で、引き続き伸びました。米国における売上は43%増で、米国以外の国の1-9月の売上は、32%増でした。

地域別売上高

	第3 四半期		CER %	1-9 月期		CER %
	2002	2001		2002	2001	
米国	2,244	2,166	+4	6,963	6,425	+8
欧州	1,390	1,170	+6	4,195	3,819	+7
日本	251	202	+23	663	591	+19
その他	465	412	+15	1,332	1,205	+13

- 9 月期の米国の売上は、8%増でしたが、これは、Nexium™、Seroquel™ (セロクエル)、Toprol-XL™ の業績が好調に伸びていることが、原動力となりました。ただし、Seroquel™ (セロクエル)と Toprol-XL™ については、卸の購買パターンが一定していなかったため、第3 四半期の伸び率は影響を受けました。
- 欧州の1-9月の売上は、7%増で、フランスおよびイタリアがこの増加の原動力となっています。製品で言えば、欧州での売上の伸びに寄与しているのは、Nexium™、Symbicort™、オンコロジー領域の製品群および Seroquel™ (セロクエル)です。

- Iressa™ (イレッサ) の有望な滑り出しを含むオンコロジー領域の製品群が大きく貢献し、日本での売上は好調でした。また、 Losec™ (日本での製品名 :オメプラール) と Seroquel™ (セロクエル) も貢献しました。

営業レビュー

1-9 月期

恒常為替レートによる売上は、9%増の 131 億 5,300 万ドルで、例外的損益項目控除前営業利益は、8%増の 32 億 8,200 万ドルでした。営業利益率は、25.0%で、昨年と比べて 0.5 ポイント低下しました。為替の影響による利益率の減少は、0.3 ポイントでした。残りの 0.2 ポイントについては、売上原価の減少とその他営業収益の減少が相殺された結果です。販売管理費および研究開発費の対売上比率は、2001 年と同様でした。

売上に為替の影響はほとんどありませんでしたが、費用には、若干、マイナスの影響があり、昨年と比較して、営業利益に 1%のマイナス影響を与えました。

第 3 四半期

恒常為替レートによる売上は、6%増の 43 億 5,000 万ドルで、例外的損益項目控除前営業利益は、9%増の 9 億 2,100 万ドルでした。営業利益率は、4.5 ポイント減で、対売上比率は 21.2% でした。

為替は、第 3 四半期の売上の伸びを、4%増加させました。これは、主に、ユーロに対してドルが安かったことによります。これは、英スターリングポンドおよびスウェーデンクローネに対し、ドルが安かったことにより、コスト高となり、相殺されました。また、このことは、総じて、営業利益には影響を与えませんでした。第 3 四半期において、販売管理費の増加のほぼ半分、また、研究開発費の増加の約 1/3 は、為替の影響によるものでした。

売上原価率は 27.1%で、2001 とほぼ同様でした。Merck への支払いは増加しましたが、製造コストを低く抑えることができたので、相殺されました。販売管理費の増加 (対売上比率 33.7%) は、売上増に見合うものでした。第 3 四半期の研究開発費の対売上比率は 17.4%で、2001 年と比較して、1.9 ポイント高でした。これは、比較対象となっている 2001 年の数値が低かったことや、(この年の第 3 四半期は、年間研究開発費の 23%のみでした)、為替の影響、臨床試験費の増加基調が原因として挙げられます。その他営業収益は、対売上比率 0.3%で、2001 年と比較して、2.1 ポイント減でした。これは、昨年に終了したロイヤリティ契約による収益および 2001 年におけるマルチビタミン剤売却益が昨年度計上されていたことによります。

利息

第3四半期の受取利息は、200万ドルで、2001年の第3四半期(23億ドル)と比較して、減少しました。これは、現金投資収益の低利率および従業員の長期保険負債の年次再評価から生じている重い負担によるものです。

税金

例外的損益項目を除き、2002年第3四半期の実効税率は、2001年同期の28.4%に比して、26.25%でした。これにより、1-9月期の税率は、26.8%(2001年は、28.4%)になりました。2001年の税率は、FRS19に基づき、再計算されました。詳細については、中間財務報告書の注釈1を参照ください。

キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは、1-9月で41億ドルになりました。これは、設備投資額10億ドル、納税額7億ドル、配当金8億ドル、株の買い戻し費用9億ドルを差し引いた後の、正味キャッシュファンドの純増額は、8億ドルでした。

2002年9月30日付、グループ正味キャッシュファンドは、36億ドルでした。

株の買い戻しプログラム

第3四半期は、総額1億4,800万ドルで、普通株式460万株(額面0.25ドル)が、買い戻され消却されました。これにより通年で、総数2,060万株、総計8億9,600万ドルになります。

本プログラムがスタートしてから、買い戻し消却された株の総数は現在、5,780万株となり、買い入れ金額は、25億1,000万ドルです。発行株式数は2002年9月30日現在、17億2,500万株です。

2001年の年次報告で発表された株の買い戻しプログラムの拡大により、14億9,000万ドルが残っており、2003年末までには終了する見込みです。

今後のマイルストーンおよび主なイベント

11月7日 アニュアル・ビジネス・レビューミーティング

2003年1月30日 2002年度業績発表

トム・マキロップ

チーフ エグゼクティブ